

ロサンゼルス生誕150周年を記念してあのドジャースタジアムで2000年5月13日(現地時間)に行われたコンサートイベント「Wango Tango 2000」。レニー・クラヴィッツやエンリケ・イグレシアスといった大物アーティストが多数登場し、米国はもちろんのこと、ヨーロッパ、アジア、アフリカ、ニュージーランドでもストリーミングで放送された本イベントを指揮するのは、現在、米国の多くの若者から支持を得ているサイト「KISSFMi.com」。これだけのイベントをやっているサイトの正体とは？

リアルとバーチャルの華麗なる統合 5万5000人を 熱狂させた KISSFMi.com

編集部

photo : Akiko Nabeshima

若い世代の心をつかむ

KISSFMi.comの 戦略を解く

2000年5月13日14時、会場となったドジャースタジアムは満員の若者たちで埋め尽くされていた。一見すると、よくあるコンサート風景だが、大型スクリーンに映し出される映像を観ると、ただのコンサートでないことが一目でわかる。ラジオのDJ風の男が「KISSFMi.com」とがなりたてている。スクリーンにウェブサイトが表示され、その画面にアーティストが映し出されるごとに観客が沸いている。これは一体どういうことなのか？

この謎を解き明かすためには、本イベントを主催しているラジオステーション「KISS-FM」がウェブにドッキングして生まれたエンターテインメントサイト「KISSFMi.com」

について説明する必要がある。

本サイトの特徴は大きくわけて2つある。

1つ目は、ロサンゼルスでナンバーワンの視聴率を誇るKISS-FMと協力関係を持ち、同社が提供する番組のインターネットにおける放送権を取得していることだ。そのため、全米の約65パーセントのラジオ局を傘下に収めている同社の音楽番組をインターネットで放送する際にリアルタイムで曲のタイトルを流したり、収録風景をストリーミングで放送したりできるほか、パーソナリティをウェブ上で企画に登場させるといったことも実現できる。

2つ目は15歳～25歳の若い世代を対象にしてコンテンツを作っていることだ。同サイトではこの世代の心をつかむには「音楽」分野を充実させる必要があると見ている。注目すべきは、いったんサイトを訪れたユーザーを停留させる作戦として、若者に人気のハリウッドスターなどへの独占インタビューの映像を提供してサイトに対する興味を持続させ、さらにショッピングやコミュニティー、ゲームといったページに寄り道させるように仕向けている

点である。ちなみに、同サイトの1人当たりの平均視聴時間は14分10秒で、AOLの12分04秒やライコスの10分12秒を上回る。

コンサートに熱狂していた若者たちや、当日、サイトを訪れた多くのユーザー。恐らく彼らは単純にその瞬間を楽しんでいた。しかし、その楽しさの裏に秘められた「仕掛け」には、きっと気付いていない。KISS-FMを聴いた人だけが魅力的なコンテンツが満載のサイトへ誘われ、サイトを訪れた人だけがドジャースタジアム行きの切符を手に入れる。ドジャースタジアムに行った人が体験する興奮の9時間は、サイトを訪れた人だけが共有できる。FMラジオやコンサートという「リアル」な世界と、インターネットという「バーチャル」な世界。この2つが絶妙にコラボレートすることで、ユーザーの喜びは2倍にも3倍にも膨れ上がる。これこそが、KISSFMi.comの人気の秘訣ではなからうか？

www.kissfmi.com



サイトの黒幕は語る
われわれが描く
すぐれたサイト像

「これからのマーケティングは15歳～25歳の世代をいかに押さえられるかにかかっているでしょう」と語るのは、ZERONグループの社長であり、50社以上のインターネットおよびテクノロジーベンチャーに投資をしてきた、本サイトを運営する米国FMiTV Networks社の取締役、増田茂氏である。同氏は、FMというメディアをインターネット

に取り込み、若者に向けた独自のコンテンツを意欲的に作っていきと語る。一方、同社の会長兼CEOであるローレンス・ノーゼン氏は「最終的にはコミュニティーのアイデアだと思います。今後は各国語に対応したページを作っていく予定です。たとえばスペイン語ならスペインのラジオ局の力を借りてね。さらに母国語を各国の言葉に自動翻訳する技術開発も行っていく予定です。これが実現すれば、世界中の人と双方向のやり取りができるようになります。

このほかにもわれわれは、マイクを通してチャットができる「ロケットトーク」というソフトを無料でダウンロードさせ、マイク自体も2ドルで配布するなどして、だれもが気楽に楽しめるコミュニティー空間を追求していきたいと考えています」と語る。

また、サイトのグラフィックに関するアドバイザーに就任したスコット・ロス氏(映画『タイタニック』ほかハリウッド系映画の特殊撮影を数多く手がける)は「ストーリー性・高度なグラフィック・テクノロジーを持ち合わせているサイトは少ないと思います。このサイトをそういったレベルのものに育てていきたいと

BRIAN MCKNIGHT

「今日のパフォーマンスが同時に違う国に流れるのはスゴイよね。インターネットでのプロモートは必須のものになると思うよ」



JESSICA SIMPSON

「世界中の人々が私のことを見ているんだもの。とても興奮したわ。インターネットはプロモートにどんどん使っていくわ」



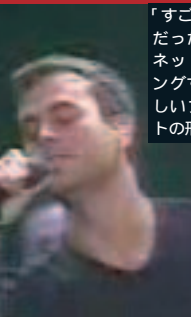
LENNY KRAVITZ



考えています」と語った。

同サイトではインテル社が開発した「Streaming Web Video」(オーディオ/ビデオをネットワーク上で高品質に供給するソフト)を利用して、同社が提供するストリーミング専用のキャッシュサーバーを米国の55か所に設置している。「エンターテインメント性に富んだ独自のアイデア」「高度なグラフィック」「安定したシステム」の3本柱をハイクオリティで提供できるならば、今後も同サイトは躍進し続けられるだろう。

ENRIQUE IGLESIAS



「すごくクールな体験だったね。インターネットでパフォーマンスすることは、新しいブロードキャストの形だと思うな」



ヤマンバギャルも熱狂!?
日本で観る
Wango Tango

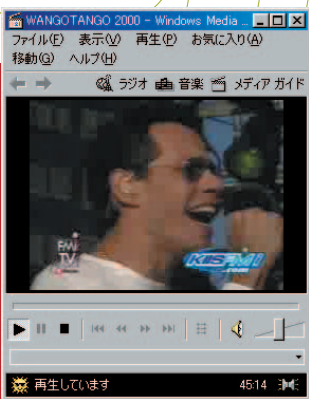
本イベントは、ジャパンエフエムネットワークが中心となり、日本でもストリーミングで配信された。ネットワークの流れは、米国から日本にCSを利用して電波を送る、全国5か所に特設された衛星パラボラアンテナでそれを受信して大型スクリーンで放映する、

さらに東京FM前で受信したものに、バックステージインタビューに同時通訳を合成する。ドリームネットのサーバーにマイクロ波でデータを送る、ヤフーのサーバーに同軸ケーブルを利用してデータを送る、それぞれのサーバーでストリーミング用にエンコードしてライブ放送する、というものであった。

JFNと東京FMでは今後、FMiTV Networks社に対して出資し、同社が持つ6つのコンテンツを翻訳して日本でも提供していくと同時に、日本で製作したコンテンツを英訳し、同社を通じて広く海外に提供していく方針である。



KISSFMi.comのトップページ。「Watch」「listen」などをクリックするとさまざまなストリーミングコンテンツが登場する。



ステージのド真ん前で撮影された、臨場感のある映像がストリーミングで流された。



衛星での同時中継が行われたベルファールの会場。この日はパラバラのイベントだったため、若い女性が目立った。



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp